



○ しかる おこる いかる

ほめることが教育には大切です。硬い表現で言えば評価することが大切です。「評価する」というのは点数をつけてふるい落とすというようなマイナスイメージではなく、すばらしい業績をたたえて認めるというプラスイメージの方です。しかし、時にはしかる場面も必要です。できればしたくないことですが・・・。

23日(火)2年生の「養護内容」の授業におじゃますると、ちょうど「しかる」と「おこる」の違いについて考えているところでした。今回はそれに関連するものです。下記原稿はかつて発行したたよりの中身をほぼそのまま掲載しています。㊦号に続いて楽をしてすみません。

「しかる」と似ていることばはいろいろありますね。「おこる」「いかる」などが挙げられます。その違いをちょっと書いてみましょう。今はインターネットなどで調べてみるといろいろなことがすぐに分かります。ちなみに「しかる」は相手の成長を願って悪いところを冷静に指摘する。「おこる」は自分の感情を込めて相手を非難する。だいたいこのように違いが記述されています。「いかる」は感情そのもののような感じがしませんか？

学校のような教育現場では意識的に使い分けているつもりです。しかし“先生”も人間なので、たまに混ざってしまうことがあります。そんな時はプロとしては落ち込みますね。反省することがよくあります。しかし、それを越えた段階の「体罰」はいけません。「いかって」しまった結果ですから。新聞記事になることもまだまだあり、なかなかなくならないようです。残念です。

家庭でも体罰はいけないでしょうね。私は自分の娘が小学校3年生の頃、一度だけビンタをしたことがあります。娘はもう忘れていたようですが、私の心の中には大きな後悔の念とその時の娘の悲しそうな顔の映像がいまだに明確に残っています。手を出す必要はなく、他の方法はいくつもあつたと思ひ返して、心がドキドキします。

学生の皆さん、保護者の皆さんにはご理解いただけると思います。「児童の皆さん、これを読んで難しいことが書いてあるなと思ったでしょうが、ちょっとだけでも心に留めておいて下さい。友だちとのトラブルが少なくなるんじゃないかな。」←小学生向けの文です。

さて、今回はインターネットで調べましたが、前勤務先の小学校に昭和33年7月15日第一版第五刷発行(古い!)の広辞苑があつたので、「しかる」を調べてみました。それには、「声をあらだててとがめる。とがめ戒める。」とありました。「おこる」は「いかる。はらだつ。」とありました。???ちょっと違いが分かりにくいですね。要するにことばの分類をすることが大切なのではなく、使い分ける心構えと技術、心の温かさが大切なのだと思います。でも、頭で分かっているだけでも、現実の場面でおこらないで、しかるようにするのは難しいことが多いですね。

自校自賛

この日、1年生の4限目にレクリエーション支援の授業がありました。話をするときの「目を合わす合わさない実験」をしたり、示された課題(感情を表すことば)を表情だけで他者に伝えるゲームをしたりしました。現実の子どもたちへの対応場面では、悪いことだときちんと知らせるためには先生の表情も厳しくなくてはなりません。楽しさを盛り上げる場面では先生が楽しい表情をしていなければなりません。「先生」は「役者」にならなければならない場面がたくさんあります。そのことを楽しく学べた授業でした。



1年生の受講風景「憲法」